

“がけやま” からのつぶやき (1)

— 巣ごもりの中で博物館から心の栄養を…お届けします —

2月14日(日)、博物館の企画展「近代をきた土佐派絵師 栗田真秀」が終了いたしました。たくさんの方にご来館いただきありがとうございました。また、ご来館に際しまして新型コロナウイルス感染症拡大予防へのご協力、重ねて御礼申し上げます。

この展示会、博物館が平成9年に開館してから42回目の展示会になります。これまでの展示会入場者累計は45,253名。本当にたくさんの方々にご来館いただいております。突然、「広報あさひ」に博物館の記事が登場して「？」の方も多と思います。それはただ偏に、みなさまへ感謝の気持ちを表したい、お伝えしたい、だけなのです。そのため、貴重な「広報あさひ」の紙面を少し割いてもらいました。

ここでは御礼とともに、少し過去の展示会の思い出話やちょっとした裏話をつぶやいて、コロナ禍で不自由な生活の毎日を送られているみなさんが少しでもホッとした気持ちになってもらえれば…というのがねらいです。いやいや、正直、このつぶやきを読んで博物館へ行ってみよう、という方が一人でも増えれば幸いとの下心もないといえはウソになりますが…、何はともあれ、展示会のおはなしがみなさんの気分転換になれば望外の喜びです。

今回は、本編への導入ということでお読みいただければと思います。みなさまの中には、博物館にはまだ行ったことがないという方や興味がないという方もいらっしゃるかと思います。そこで簡単に博物館は何をしているか、どのようなところかをお話しますと…。

博物館は、町民のみなさまをはじめ、たくさんの方々楽しんでいただける展示会、古文書学習会や文化教養講座といった講演会も実施しています。これらの事業は、朝日町の歴史文化の情報発信という役割を担っています。そして当然のことながら、それはみなさまによって支えられています。しかし、ホッペを申し上げると、職員は展示会や講演会の参加者のみなさまからのご質問などにもドキドキ、緊張して対応しております。なぜかといいますと、ご来館いただく方、また、講演会などに参加者される方々に共通するのは、みなさん「知的好奇心」が旺盛だということです。熱量がすごいのです。そのことは、朝日町の歴史文化を知る、作品に感動する、なるほど、初めて知った、これを知りたい、といったいろいろな表現ができますが、それらはすべて、「知」への向上心の一言に尽きると思います。博物館では、常日頃からみなさまの期待に少しでもお応えできるよう、満足していただけるよう、みなさんの“知”をより一層刺激できるよう、いろいろな事業を考え運営しております。

では、とりあえず過去の展示会の思い出というか、ネタばらし的なおはなしをつぶやいていこうと思いますが…、残念ながら紙面の方も終わりに近づきましたので、今回はここまでとなります。

最後に、この記事のタイトル「“がけやま”からのつぶやき」についてです。現在、博物館と図書館が建てられている場所は、昔“がけやま”とよばれていました。朝日町の方なら、子どもの頃に遊んだ場所、ラジオ体操の場所、盆踊りの場所、などなどいろいろと世代によって異なる思い出の地、なのです。そこからの情報発信というのがタイトルの由来です。(つづく…)



【展示会のようす】



【「がけやま」の写真】

崖の下に空き地が広がっていました。



【「がけやま」の写真】

空き地で運動会が行われていました。写真上部に見える調整池は現在もほとんど同じ場所にあります。